

REAL Voice ~ 「子どもへの暴力」生の声を聞く ~

記号	本のタイトル	タイトルの説明	読者年令	辞書
1	「中学生との出会いから」～共に生きる私～	活動の中で中学生との出会いがある。印象に残るエピソードを紹介したいです。「瞬間瞬間を表現することと、ありのままを受け入れることの葛藤がありました。」彼らの繊細な心に触れたあの日、私の存在は水のように透明になった。	10才～	
2	あなたがそこにいるだけで～地域のばあばとして～	保育所保健師 35年の経験から、人間だからこそ“不適切な育児(虐待ともいう)”をしてしまうことがあると感じています。けれど「子どもは宝物」。親の悩みやストレスを子どもに向けないために、また、世代間連鎖をおこさないために、子どもをとりまく大人に寄り添うことも大切だと考えています。小さな活動が子どもの健やかな成長と親に安心感をもたらし、地域の役に立ちたいと考えています。	高校生～	
3	子どもと関わっている保護司って？	法務省保護観察署の管轄である保護司。犯罪者の更生、手助けをしています。	小学生～	
4	外国にルーツを持つ子どもと出会って	識字日本語学習支援ボランティアとあして活動する中で、外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く厳しい状況を知りました。子ども達のために日本語教室「こどもひろば」を立ち上げ仲間と共に包括的支援を目指して、日々活動しています。	小学生～	
5	地域で出会う子どもたち～わたしにできる子育て支援～	地域で子育て支援活動を始めて15年の月日が流れました。変わったこと、変わっていないこと、大きな流れの中で見えてきたことがたくさんあります。これは、出会うやつながらの中から感じれたことです。子育てや子どもたちの現状の厳しさが虐待につながることも……。大きな取り組みより、まず今すぐできることがあります。すべての子どもが自分の育ちに誇りが持てるように今できることは？	0才～	
6	精神障がい者が感じる社会からの暴力	ちょっと変わった人から精神障がい者まで、様々な生きづらさを抱えながら懸命に生きている人たちがおられます。彼らが日々感じている社会からの暴力とはどういうものなのか・・・それらを知らずにいることで何気ない振る舞いが誰かを傷つける暴力になっているかもしれません。知ることの大切さを改めて考えてみたいと思います。	中学生～	
7	発達しょうがいの子と歩いてきて	支援者というはおこがましいかもしれませんが、発達障害の子と共に関わりながら歩いてきました。まわりからは見えにくい障害であるが故に自分をダメだと自信を無くしやすい子ども達。そのままのあなたでいいとハグして、そしてどうしたらいいのか一緒に考えていけたらと思います。	0才～	

A	なぜ、私は生きているの？	いじめが大きな社会問題となってからどのくらいになるでしょうか。悲しいことに今も時々いじめが原因で自殺した、というニュースを聞きます。私も小中学校で8年間いじめに遭い、その後も人間関係に苦しみました。自殺も何度も考えたし、自傷行為は今も完治してはいません。それでも今は自分の生きている意味を見つけ、心の傷跡とも共存しつつ生きようと願っています。今回は主に大人になる前の経験をお話したいと思います。	小学生～	
C	暴力からの解放と許し	私は両親が離婚するまで父親の家庭内暴力で子ども時代を様々な苦しい体験をしました。私が小学3年で父の事業は倒産し、家も売り、母により家計は支えられました。しかし父の暴力はやまず、借金を重ねるなかついに子どもたちから父へ離婚を求め成立しました。 自分の心の傷と向き合い、なぜ暴力の連鎖が生まれるか知るなかで、父への憎しみから解放され、和解することができました。	6才～	
D	虹色戦隊トランスジェンダー	病名として性同一障害という言葉は知られるようになってきましたが、ライフスタイルとしてのトランスジェンダーという言葉はほとんど知られていません。性別は生物学的にも社会的にも(異性が好きな)女と男のふたつだけでなく、グラデーションのように様々です。しかし、世の中は二種類の性別しか存在を許さず、そのためセクシャルマイノリティの子達は周りの人や社会から自分を否定するよう仕向けられ苦労します。今回は、私が子ども時代に持っていた葛藤や生活の困難についてお話ししたいと思います。	0才～	
E	薬物を使い始める前、私には助けが必要だったが、どうやって助けを求めたらよいのかわからなかった	親の製作したウルトラ良い子ロボットである私、息がつまりそうな優等生生活。14歳の時、私はトイレの壁にもたれたまま、シンナーの入ったビニール袋の中でやっと息を吹き返しました。口にあてがった袋を持つ手は両手の祈りの形をしていました。(やっと悪い子になれた)私は自分を壊すことでしか、親のコントロールの手から逃れることができなかったのかもかもしれません。		
F	母嫌いな娘もいるはず	世の中のイメージの中で「母」ほど守られているものはないのでしょうか？母という人には母性本能があって、優しく、犠牲的で…多くの方はそうなのかもしれません。でも、そうでない人もいます。「母を好きになれない自分がおかしい」とずっと自分を責め続けていました。あまりに単一的な母というイメージに深く傷つきました。	小学生～	
G	日本の学校に転校して来た外国人	ある日、自分の生まれ育った国を離れ、家族と一緒に日本にやってきました。楽しみにしていた学校生活が楽しいことばかりではなく、困難を乗り越えていかなければならない毎日になりました。日本の学校で「外国人」として生活している中で、「言葉」「制度」「心」の3つの壁を知りました。これらの壁を前にしたら、どうしますか？	10才～	
H	タイガーマスクの育ったところ～児童養護施設で育った若者の生き方に出会う～	5～14歳まで、自動養護施設で育った。ナウイヤングなワタクシが、入所理由から～突然親が見つかって退所するまでの話と、退所してから「今」に至るまでの話をします。	0才～	有り

I	見えにくい、わかりにくい聴覚障がい者	補聴器は車椅子などと違い、小さくて見えにくい。初めて出会う人はまずわからない。そして、私も、隠し通すこともできる、聞こえているふりもできる。そういう中で、「実は聞こえにくいのです。」と言えるのか、言えないのか。そして、それを受けてもらえるのか、もらえないのか。小さな誤解をなくし、誰もが気持ちよく過ごせるように。	小学生～	
J	虐待から這い上がってつかんだ幸せな生活	私は幼い頃、実の父親から虐待を受けました。その後母は実の父と離婚しましたが、再婚相手の養父からも、またもや虐待を受ける事になりました。 暴力や暴言が絶え間なく続く、地獄のような日々でした。それを最愛の母は、「ごめんね」とただただ謝るだけでした。私は母にも裏切られたような、見捨てられたような気持ちになり、絶望し自殺を計りましたが、このまま虐待に負けて死ぬ程惨めなことはないと、思いとどまりました。そして家出をして大阪へ行き、死に物狂いで必死に働きました。ただこの惨めで悔しい日々から抜け出したい一心で・・・・・・・・ その後仕事先で優しくて包容力のある男性と出会い結婚し、今では3人も子供たちと5人で幸せな家庭を持つことができました。	中学生～	
K	解け出した子どもの頃の記憶	「あれは虐待だった」。数年前そう思えるようになった。仕事で虐待問題にかかわるうち、記憶がよみがえった。母の書いた作文で賞を取らされ、母と教師がトラブルを起こせば翌日から登校拒否をさせられる。誰もが気付いていたが、助けてはくれなかった。当時、自分を守るために氷付けにした苦しみやつらさが、今、次々と解け出している。		
L	学校へ行かないってこんなこと、こんな気持ち	学校へ行かないということって、いろいろ偏見で見られる。例えば、将来どうするの?とか勉強は大丈夫?とか。でも、学校へ行くことだけでなく、いろいろのルートがあるよ、学びたいと思った時に学んでもいいんだよ、と伝えたい。	0才～	
M	発達障害ってどんな事を暴力と感じるかわかって欲しい	当たり前にするって事が暴力なんです。いやな事は、とにかく「イヤ」なんです。	小学生～	
N	“変わってる”って、なに?	外にでたら、変わってるって言われる。家に帰って親に「変わってるって言われる」「ちがうって言われる」というと親は「ふつうやで」と言う。ひたすら混乱しながらずっと(大学卒業の頃まで)みんなと一緒にいたかった。仲間はずれになりたくなかった。	小学生～	